植木病院だより

Vol.38
令和5年 春

発行所 〒861-0136 熊本県熊本市北区植木町岩野285-29
TEL096-273-2111 FAX096-272-2117
熊本市立 植木病院
発行人 掃本誠治



令和5年度が始まりました。今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大予想が難しいことや、5類感染症になることもあり、ここ数年とは違った年度になり、個人も組織もそれぞれの期待に夢を膨らませることができるように思います。

歴史を振り返りますと、約100年前の“スペイン風邪”のときもいくつかの流行の波を経て収束しています。当時電子顕微鏡は発明されておらず、ウイルスそのものを顕微鏡で確認できない時代で、時の首相も天皇陛下もご罹患されておられます。当院としましては、感染流行の有無にかかわらず、全職員、日頃の感染対策を行いつつ診療・業務にあたる所存です。

さて、４月から新たに黒川博文先生（循環器科医師）が赴任されました（熊本大学辻田賢一教授の御高配に感謝致します）。地域医療機能推進機構人吉医療センター循環器部長からの異動になりますが、専門的な知識、高度な技術を有し、大変優しいハートを持つ先生ですので、地域医療に貢献いただけると期待しております。

また事務局ですが、自治体病院の事務職員は人事ローテーションで病院に配属され、2～3年程度で別の職場に異動することが多い中で、長年勤務されてきました寺本吉克主幹が事務局長に昇格され、大変心強く思っております。

令和の病院改革としまして、元年から整形外科手術と心臓カテーテル検査・治療を開始し、２年度に訪問看護ステーション独立化による地域包括ケアシステムへの関与を深め、脳卒中地域連携パスに加わりました。３年度は呼吸器専門医師、代謝内科医師を招聘し、また心不全療養指導士の育成と心臓リハビリテーションの開始により心不全患者の包括的ケアを地域全体、多職種で進めました。４年度は、放射線科医師常勤による画像診断の迅速化と開業医の先生方との連携、また健診部門におきまして女性健診医師と専門保健師によるきめ細やかな特定保健指導を開始し予防医療の面でも地域貢献しております。



今年度（5年度）は、救急対応への更なる促進のため、救急患者初期対応医師を循環器医師にしまして、first touchから各専門の先生に依頼する方式と致しました。本来は、救急を診れる総合診療医のfirst touchが理想かもしれませんが、まずは行動に移しました。心不全のみならず、多臓器の機能・構造障害を併発している高齢者・超高齢者の“全不全”への対応が必要で、全県型の高度急性期病院に搬送すべき症例とその適応ではない症例をトリアージする力が地域密着型の急性期病院を目指す当院には必要とされます。

当院医療圏は、人口の微減に対し高齢化率の上昇により（2025年予測35%）、慢性疾患増加、要介護・要支援者増加が見込まれます。高度専門病院との病病連携により回復期・慢性期の医療、看護、リハビリ患者に対応し、近隣開業医さまとの一般急性期疾患病診連携を深化させ、地域医療構想での立ち位置を確認しながら、“信頼と満足の得られる全人的医療の提供”の基本理念のもと、全職員（看護、医療、メディカルスタッフ、事務、委託の全部門を含めて）地域の保健・医療・福祉に貢献したいと存じますので、今年度も皆さまのご指導・ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

病院長　掃本 誠治

外来診療のご案内

（2023年4月1日現在）

	診療科	月	火	水	木	金
午前	消化器内科		三原　通晴	三原　通晴	※土亀　直俊	三原　通晴
	循環器内科	廣田　晋一	掃本　誠治	掃本　誠治	廣田　晋一	掃本　誠治
		福田　仁也	廣田　晋一	福田　仁也	黒川　博文	※松永　光平
	代謝内科・糖尿病	櫻田　郁	櫻田　郁	※大津　可絵		櫻田　郁
	呼吸器内科	鈴村　智子	鈴村　智子	※御任　玲美	鈴村　智子	※木村　俊貴
	腎臓内科			※岡村　景子		
	外科				※白石　裕大	
	整形外科	紫垣　光久	紫垣　光久	紫垣　光久	紫垣　光久	紫垣　光久
		坂本　佳菜子		坂本・※橋本	坂本　佳菜子	
	脳神経外科	吉里　公夫	吉里　公夫	吉里　公夫	吉里　公夫	吉里　公夫
	健診科	※小阪　雅代	※小阪　雅代	櫻田　郁	櫻田　郁	※小阪　雅代

① 当院では、再診予約制を行っております。診察時に次回予約をお取りください。
　予約変更等の問い合わせにつきましては、平日午後（13時～16時30分）にお願いします。
② 予約外の再来患者様へ：医師の学会等で休診がございます。前日確認の上、来院をお願いします。
③ 午後の通常外来はございません。
※は、熊本大学病院等からの非常勤医師です。

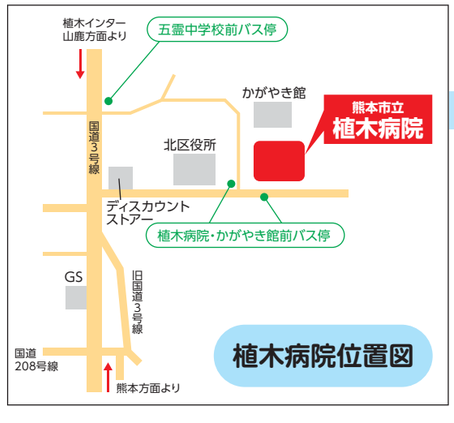
診察受付時間：平　日／ 8：15～11：30
休　診　日：土曜日・日曜日及び祝祭日
　　年末年始（12月29日から翌年1月3日）

※ 急患の方はこれに限らず24時間対応致します。

地域医療連携室のお知らせ

当院では、各医療機関との連携を推進しております。その窓口として「地域医療連携室」がございますので、ご活用くださいますようお願い申し上げます。

■地域医療連携室
電話：TEL096-273-2111（代表）
FAX096-272-2117（代表）



交通アクセス

路線バス　九州産交バス「A4-1」「A4-2」「U2-1」：北区役所・小野泉水 行
熊本電鉄バス「C4-4」「C4-5」：北区役所 行
いずれも「植木病院・かがやき館前」バス停で下車

循環バス　ゆうゆうバス植木循環ルート
「植木病院・かがやき館前」バス停で下車

乗 用 車
・熊本市中心部より30分
・山鹿市中心部より30分
・九州自動車道 北熊本スマートインターから5分
　植木インターから10分

編集後記

今年の桜は長雨で満開前に散ってしまうかと思われましたが、入院患者様と一緒にきれいな花を観る事が出来ました。

4月より一部面会制限も緩和され、リモート面会とは違う患者様や御家族の笑顔が見られることを嬉しく思います。

5月より新型コロナも5類に引き下げられますが、引き続き感染対策を行いながら、患者様や御家族の満足のできる医療の提供に取り組んで参りたいと思います。

新任医師・メディカルスタッフ紹介



循環器内科　黒川　博文

令和5年4月から植木病院で勤務させていただいております、循環器内科の黒川博文です。出身は玉名郡の和水町(旧菊水町)で、宮崎大学を卒業した後は熊本県内の医療機関で勤務してきました。前任地の人吉には5年間、その前の水俣には3年間勤務しており、県南での生活が長かったのですが、今回地元に近い植木病院で働けることを大変うれしく思っています。

これまで地域の基幹病院で循環器内科の急性期疾患を中心とした診療を行ってきました。当院でもカテーテル治療等の急性期診療に携わっていきたいと考えておりますが、それに加えてこれまでよりも幅広い領域・慢性期の診療にも貢献できるようにしたいと考えております。

近隣医療機関の皆様と適切な連携を取り、患者様の生活環境にも配慮した診療を心がけていきたいと考えております。不慣れなこともありご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、宜しくお願い致します。



臨床工学技士　原口

令和５年４月より熊本市民病院より異動して参りました原口と申します。現在の医療において医療機器は不可欠なものとなっています。医療施設での医療機器の安全確保については、2007年の第５次医療法改正および医療法施行規則の一部改正に伴い、「医療機器に係る安全管理のための体制確保に係わる運用上の留意点について」（医政指発第0330001号・医政研発第0330018号）の通知が発出され、医療機器の安全管理体制を構築するために医療機器安全管理責任者の配置と業務が義務付けられています。

臨床工学技士として医療機器安全管理責任者として、微力ながら信頼と満足の得られる全人的医療の提供に少しでも貢献できるよう頑張ります。



看護部　西島

4月から熊本市民病院より異動して参りました、看護師の西島と申します。一日でも早く植木病院に慣れて、患者様とご家族に寄り添ったケアが提供できるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



●「けんしん」を受けていますか●



「けんしん」には「健診」と「検診」があります。

健診（健康診断）は自身の健康状態を確認し、病気を予防することを目的としたものです。

一方、検診は病気を早期発見し、早期治療につなげることを目的としています（健診と検診については後述します）。

年1回は「けんしん（健診/検診）」を受けましょう！！

日本人の死因は、1位 悪性腫瘍、2位 心疾患（高血圧性を除く）で、この順位は30年以上変わっていません。

1位の悪性腫瘍は、男性では・肺がん、女性では・大腸がん・肺がんで亡くなる方が多く、その他・胃がん・女性の乳がんなどがあります。2位の心疾患は心不全が多く、心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみがおこり、だんだん悪くなり、生命をちぢめる病気です。

1位と2位には共通点があります。それは「有効な予防方法がある」ことです。

がんに有効な予防は**①禁煙する②節酒する③食生活を見直す（減塩する／野菜を摂るなど）④身体を動かす⑤適正体重を維持すること**です。この５つを実践する人は、0または1つ実践する人に比べ、男性で43%、女性で37%がんになるリスクが低くなるという統計が示されています（詳細は下記参考資料をご参照ください）。

そしてこの5つは、心不全のリスク因子である高血圧や糖尿病の予防や管理に有効であり心不全の予防につながります。まさに健康習慣です。

「けんしん」では、問診で健康習慣の取り組みの有無を、検査で現在のご自身の健康状態を確認し、必要に応じアドバイスを行います。

「けんしん」はご自身の健康習慣を見直し、病気を早期発見するよい機会です。ぜひ年に１回「けんしん」をうけましょう。

健診：企業健診（企業で行う定期健診）や特定健診（対象年齢40～74才）、後期高齢者健診（対象年齢75才以上）など

検診：対策型検診　がん検診（肺がん検診、胃がん検診など自治体が行うもの。検査内容は決まっている。費用は低額）

任意型検診：人間ドックなど（検査内容を選択でき、幅広く検査できる。基本的に全額自己負担）

＊人間ドックを受けていない人は、健診と検診を組み合わせましょう＊

～参考資料～

厚生労働省　令和３年（2021）人口動態統計月報年計（概数）の概況

国立がん研究センターがん情報サービス　科学的根拠に基づくがん予防

●心臓カテーテル検査・治療について●

当院では、心臓カテーテル検査・治療を行っております。心臓を養っている3つの大きな血管が狭くなると、心臓の動きが低下し、胸部痛を伴う狭心症となります。さらに悪化すると血管が閉塞する心筋梗塞という怖い病気になります。その病気を検査・治療するのが心臓カテーテルになります。当院では検査はもちろん、ステントを用いた血管拡張術やペースメーカー植え込み術などの治療も行っています。

医師、看護師、臨床工学技士、検査技師、放射線技師がそれぞれの専門分野を担いながら、チーム医療で治療にあたっております。